



## キヌヒカリの心白粒発生対策

### 1 背景・ねらい

キヌヒカリは平成5年度に奨励品種に採用して以来、良食味で栽培しやすいことから作付面積を順調に伸ばしているが、外観品質が劣ることにより1等比率が毎年低い。外観品質が劣る原因のひとつに心白粒の発生が挙げられるが、この心白粒の発生要因とその対策を明らかにし、キヌヒカリの品質向上を図る。

### 2 心白粒の発生要因

千粒重が重くなるほど心白粒の発生が多くなったことから、キヌヒカリに発生する心白は、弱勢穎花に発生する心白状乳白ではなく、強勢穎花に発生する心白と考えられた。この心白は一次生長の旺盛な粒に発生しやすく、出穂前後の好環境により発生が促進される。したがって、心白粒の発生が多くなるのは次のような場合である。

- ① 単位面積あたり粒数が少ない (= 1 粒あたりの栄養状態が良い)
- ② 遅い穂肥の施用により粒殻が大きくなるとともに、栄養状態が良好となる
- ③ 出穂期前後に日射量が多い

### 3 心白粒の発生対策

- 1) 単位面積あたり粒数をある程度 (28,000 粒/m<sup>2</sup>) 確保する。このため、本田初中期の肥効を抑えすぎないようにする。
- 2) 穂肥は早めに施用し、出穂前 18 日以降には施用しないようにする。また、緩効性肥料は穂肥に使用しない。

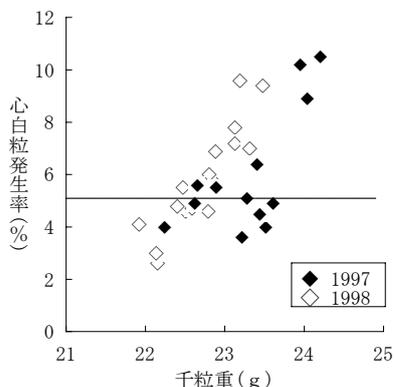


図1 千粒重と心白粒発生率の関係

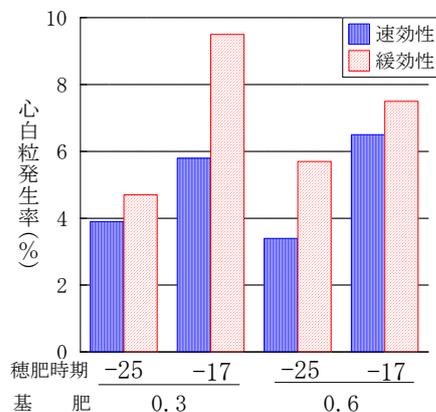


図2 穂肥の種類と施用時期が心白粒の発生に及ぼす影響(1998)  
注) 穂肥時期は出穂前日数, 基肥は kg/a

### 4 留意点

- 1) 普通期栽培のキヌヒカリで、等級低下の主因が心白粒の場合に適用できる。
- 2) 初中期の肥効が過剰になると、心白粒以外の未熟粒や倒伏による発芽粒・胴割粒の発生につながるため、注意が必要である。

#### 問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 栽培システム担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>